

林業普及週間現地情報(11/29～12/3)

森林管理課

「おきなわの木」の利活用に向けたスタディ・ツアー 12月6日(月)

令和3年12月2日(木)、北部農林水産振興センター森林整備保全課の職員を対象に「おきなわの木」の利活用に向けたスタディ・ツアーを行った。

スタディ・ツアーは沖縄県産木材の利活用の現状を学び、またその良さや魅力に触れ、今後の利活用推進に向けたアイデアやこれから先、県が取り得る施策について考える機会をもつこと目的に、森林資源研究センター井口主任研究員のコーディネートにより実施された。

製材所(企業組合 キンモク(金武町))や県産木材が家具や食器として利用されているGINOZA FARM LAB(宜野座道の駅内)の見学、森林資源研究センター内で研究紹介やワークショップ(コースター作り体験)が行われた。

今回参加した職員の多くは採用から6年未満で、これまでの業務で県産木材に触れることが少なかったため、現場の生の声を聞き、どのように県産木材が使われているか知り、自身でも製品を作ることで県産木材の特性を知る大変良い機会となった。

特に、現場の生の声として企業組合キンモクの金城代表から今後、沖縄県の施策で期待することについて、「県産木材の利用促進は製品作りを担う工場の活躍が必要。各市町村においては県産木材製品を環境譲与税を財源として購入できることから、県には更なる工場と市町村とのマッチングを期待したい」とのことであった。

今後、林業普及指導員としては各地区と連携を図りながら、森林管理課で構築している「公共施設へ県産木製品を供給するためのネットワーク」の活用し、市町村等へ県産木材の利用促進に向けた普及活動に取り組んでいきたい。

また、引き続き、職員の林業技術研鑽、及び情報共有を図り、森林林業・木材産業の活性化に向けても取り組んでいきたい。



企業組合キンモク金城代表の説明



GINOZA FARM LAB
(宜野座道の駅内)



県産木材を使用した
ランチプレート



森林資源研究センターの研究内容紹介



井口主任研究員により作成された県産木材パネルとクリスマスツリー



ワークショップで作成したコースター

(報告者：北部農林水産振興センター 今田・玉城・森田)